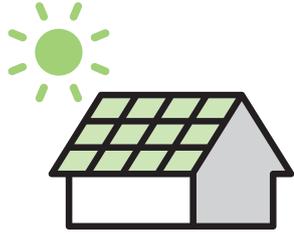


# 自家消費型太陽光発電設備導入のメリット

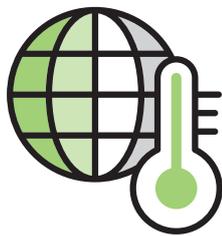
災害時などの停電時でも、  
電気が使える



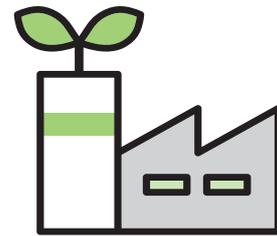
電力会社に支払う電気料金の削減  
(電気代上昇リスク低減)



CO<sub>2</sub> 排出量の削減による  
地球環境への貢献



税制優遇や各種補助金などの  
支援が受けられる



## 太陽光発電導入パターン

太陽光発電設備の導入は「自己所有」と「第三者所有」の2つのパターンがあります。  
それぞれメリット・デメリットがあるため、自社の経営計画やエネルギー調達計画などを踏まえて検討することが必要です。

**自己所有** 自社で太陽光発電設備を導入して所有し電力を調達

電力の需要家



メリット

- 長期的に見れば最も投資回収効率が良い（サービス料がかからないため）
- 設備の処分・交換・移転等を自社でコントロール可能
- 余剰電力を売電し、売電収入を得られる

デメリット

- 初期投資が大きい
- 設備の維持管理を自社で行う必要がある
- 設備が資産計上される（オンバランス）ため、財務指標に影響が出る

## 第三者所有

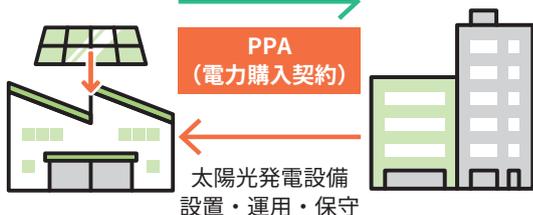
### ① PPA（Power Purchase Agreement：電力販売契約）

PPA 事業者が太陽光発電設備を設置・所有し、需要家は使用した電気料金を支払うことで電力を調達

電力の需要家

電気料金

PPA 事業者



メリット

- 基本的に初期投資がゼロである
- 設備の維持管理を自社で行う必要が無い
- 費用負担は電力を使用した分の電気料金のみ
- 一般的には設備が資産計上されず、オフバランスで再エネ電力の調達が可能である

デメリット

- 設備の処分・交換・移転等を自由に行うことが出来ない
- 長期契約となる（15～20年）

### ② リース

工場の施設の屋根や土地にリース事業者が太陽光発電設備を設置し、需要家は一定額の設備リース料金を支払うことで発電電力を自由に使用できるもの

### ③ 屋根貸し

工場の施設の屋根や土地を発電事業者が借り受け、発電を行い、電力会社へ売電等を行うもの